



の灯です。この火は設置されてから今まで一度も消えた事がなく、聖火としても採用されていきます。手首を合わせ、手のひらを大空に広げた形になっていく石のお陰で、今も燃え続けているとガイドの方に教えてもらいました。この火は絶やす事なく燃やし続け、世界中の核兵器が地上から姿を消し、平和な世界が訪れた時に初めて消す事ができます。私はその事に、核兵器の根絶に対する強い思いを感じ、とても感動しました。

二つ目は、原爆ドームが残されている理由です。原爆の投下から数年後、原爆ドームを取り壊すか残すかについての議論が行われました。この議論は二十年間にも及び、最終的には「原爆の証言者」として残される事となりました。また同じ過ちを繰り返させないためにも、悲惨な過去、悲しい歴史から目を逸らさず「後世のために残す」という選択をした事にとっても感動しました。

三つ目は、平和記念資料館で見た当時の様

子です。既に知っている事もたくさんあります。したが、知らない事もたくさんありました。特に、現物を見る事で当時の状況がイメージしやすくなり、より深く過去の歴史を学ぶ事ができた事にとっても感動しました。ずっとやってみたかった事が経験できた私はとても嬉しい気持ちでいしましたが、展示室の中盤で焼け焦げたお弁当箱を見た時、私はとても悲しい気持ちになりました。それは母親が子供のために作った物で、当時とても貴重な食べ物であったお米が入っていました。きっと母親が可愛い子供のために一生懸命作ったのだと思います。ずっと幸せに暮らしていた家族が原爆の投下により、一瞬で全てを奪われたのです。「もし私がこの家族と同じ状況下にいたらどうなってしまうのだろうか？」と考えるると本当に恐ろしくなりました。核兵器はこの世に存在してはならない物だと改めて感じました。

展示室の終盤に「広島と長崎の犠牲者は、

私たちの犠牲者です。あなた方の傷は私たちの傷です。愛と平和が治める世界を目指し、人類のために協働を。」という言葉が書かれていた資料を見ました。協働という言葉の意味を調べたところ、「協働して働く。」「それぞれが得意な事を行い協力する。」という言葉の意味があるそうです。今の私にできる事はとても少ないですが、この事業の存在を下の学年の子に教えたり、派遣児童として参加した経験を周りの人達に伝える事で、平和な世界の実現に向けて、今の私にできる範囲で一生懸命取り組んで行きたいと思います。